

# いいたて 3

令和2年3月号  
No.673

ふるさととの未来を語り合いました



★☆☆ いいたて村タウンミーティング 

特集

閉校と開校

節目の春を迎えます



大いなる田舎  
までいライフ  
いいたて

村内の学校が節目の春を迎えます

忘れないよ

ありがとう



飯樋小学校 校舎



白石小学校 校舎



飯館中学校 校舎

草野小学校 校舎



飯館中学校 仮設校舎  
(平成24年度8月～平成30年度)



草野・飯樋・白石小学校 仮設校舎  
(平成24年度～平成30年度)



県立相馬農業高校飯館校 本校舎  
(令和2年度から休校)

3 / 日曜日  
29  
小中学校  
閉校式



「東京オリンピック・パラリンピック2020」で村がホストタウンを務めるラオス。震災前から続く交流がさらに深まることを記念して、村がフレーム切手を制作しました。切手に、ラオスの名所や飯館村の風景、交流のシンボルマークなどをデザインしています。



ホストタウン フレーム切手  
1,200円(税込)

フレーム切手は、84円切手10枚で1シート。村役場2階の窓口で購入することができます。窓口のカウンターでは見本の展示も行っています。

2月から販売をスタートしました。購入希望の方はお早めどうぞ!

飯館村役場  
総務課企画係  
伊丹沢字伊丹沢580番地1  
☎0244-42-1613



CONTENTS 目次

- 3 特集 閉校と開校 節目の春を迎えます
- 6 教育のページ いいたて村タウンミーティング
- 8 教育委員会NEWS! 閉校と開校に向けて
- 10 飯館百景 ドンニヤイ村との交流
- 12 シリーズ復興対策課(最終回) 営農再開の歩み
- 16 報告のページ 長泥地区の環境再生事業
- 17 報告のページ 村職員の給与公表
- 18 報告のページ 「自分史」づくりプロジェクト
- 20 いいたて便り
- 22 話題のパレット
- 23 そのころはっ ほか
- 24 おしらせのページ 2月のできごと ほか
- 25 入札結果
- 26 きてみて /ラオス通信。
- 27 こころのぼけっと / ひとのうごき
- 28 ホープス / 編集後記

2月13日に村役場で開かれた「いいたて村タウンミーティング」。村立小学校の6年生が、ふるさとへの思いを語り、新しい村づくりに向けて、アイデア盛りだくさんの提案を行いました。P6の記事も合わせてご覧ください。



●表紙のおはなし●

いいたて希望の里学園

校歌「孤高の星」

日曜日  
4/5  
開校式

作詞 黛 まどか  
作曲 南こうせつ  
編曲 平林 龍

阿武隈の風に応えて、清らかにほこる山百合  
孤高の花は、まぎれず香る  
そんなふうには私は生きてゆく  
うれしい日も、泣いた日も、いつも君が、家族がそばにいた  
希望の里いいたて、美しい村 飯館  
ままでに花を咲かせよう

阿武隈の秋の夜空に、ひとつ星ひときわ煌めく  
孤高の星は、離れて光る  
そんなふうには私は生きてゆく  
さびしい日も、笑う日も、いつも君と、心は共にある  
希望の里いいたて、美しい村 飯館  
ままでに灯しつづけよう

阿武隈の降り積む雪の、凍る野に根を張るけやきよ  
孤高の幹は、揺るがずに佇つ  
そんなふうには私は生きてゆく  
別れた日も、泣いた日も、いつも君は、ふるさとを待ってた  
希望の里いいたて、美しい村 飯館  
ままでに歩みつづけよう

あたらしい一歩をふみだそう

胸を張って 夢を語ろう

義務教育学校「いいたて希望の里学園」が誕生します

# いいたて村タウンミーティング

草野・飯樋・白石小学校の6年生は、「総合的な学習の時間」で、「ふるさと」の現状を学び、その未来の姿についても話し合い、探究を続けてきました。その集大成として、5人の6年生が、「いいたて村タウンミーティング」に臨みました。村役場の大きな会議室で、村長はじめ村の幹部や課長らを前に、ふるさとへの思いを発表。また、実現性まで考慮した事業の提案も行いました。解決すべき課題をとらえ、自分達の願いもこめて、いきいきと語る魅力的なプレゼンテーションは、出席者を驚かせ、笑顔にしました。

星 慎治さん（飯樋小学校）  
「この手でたくさんの星をつかみ隊」  
～飯館村を全て遊び場にするぞ!!!～  
村の美しい星空、季節や時間で移り変わる空の色が大好きという星さん。自然環境を生かした施設の建設を提案しました。

すくすくを考えているね



菅野拓真さん（飯樋小学校）※写真左  
白戸凌駕（りょうが）さん（白石小学校）※写真右  
「食べなげや村・損!!キッチンカー」

郷土料理を生かしたキッチンカー移動販売について  
学びを通して「凍み餅」が大好きになったそう。村で昔から食べられている食材や郷土料理をキッチンカーで販売し広めることを提案しました。



結城樹真さん（草野小学校）※写真左  
礒山姫夢（いそやまひな）さん（白石小学校）※写真右  
「飯館村に人々大集合大作戦」

大型商業施設の呼び込みについて  
村に住む人がもっと増えてほしい…。自分達の生活も便利になり、遠くからも買い物客が見込める大型商業施設の誘致を提案しました。



提案に対する答弁も真剣に行います。



発想がすばらしい

下級生やお家の人にもアイデアを伝えてみてください

自分達が大好きな村を広めたい

おいしいものを食べながら交流ができます

テイクアウトのメニューも考えてみました

自然を生かしたイベントも考えたい

買い物しやすくなったらお母さんも喜ぶと思います

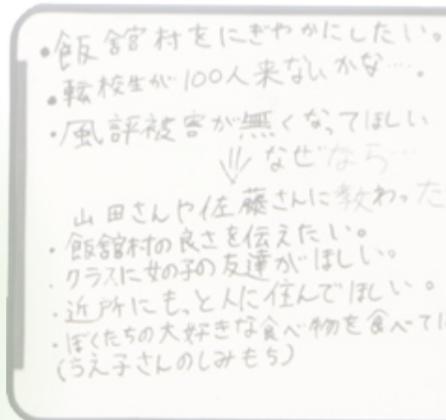
県内初出店の大型商業施設の呼び込みを提案します

## 講評

遠藤 哲 教育長



柔軟なアイデアで提案をいただき、心強くうれしく思いました。声も大きくて分かりやすく、敬語もしっかり使っていました。そして何より、相手の話の聞き方が素晴らしい。毎日の学びの成果ですね。さらには村の人の名前が次々に出てくる。ふるさと学習の取り組みの深さが分かりました。3つの小学校の最後の卒業生を、私達は自信を持って送り出すことができます。



## 新しい校歌「孤高の星」が完成しました

いいたて希望の里学園の校歌の制作をお願いしていた黛まどかさんと南こうせつさんから、校歌が届きました。

2月5日、作詞を担当した黛まどかさんと、編曲を担当したバリトン歌手の平林龍さんが、飯館中学校に来校し、子ども達に新しい校歌を、初めて披露しました。

当日は、黛さんが、校歌に込めた思いを、子ども達に伝えました。平林さんには、歌唱指導をしていただきました。

黛さんは、昨年9月に村を訪れ、児童・生徒から、新しい校歌に込めたい思いや言葉、村の思い出などを、直接聞き取りました。そうしてつくられた歌詞の意味について、黛さんは、次のように語りました。

飯館村は、高い理想をもった村だと思っています。限られた3番までの歌詞の中に、子ども達の思いを込めました。どの学年からも、「までい」という言葉を入れてほしいと言われました。また、自然や、人とのつながりなどを大切にしたいという子ども達の思いも受けて、心を込めて歌詞をつくりました。歌は、歌うことで完成します。新しい校歌を、大切に歌い継いでほしいです。

この日、平林さんのピアノ伴奏に合わせて、新しい校歌が、子ども達によって初めて歌われました。子ども達の澄んだ歌声は、間もなく迎える新しい学校の誕生を喜ぶかのように、力強く響き渡りました。歌唱指導の後、代表生徒が、「歌に込められた想いを大切にし、歌い継がれるようにしていきたい」と、お礼の言葉を伝えました。



新しい校歌の歌詞は、P4に掲載しています。

児童・生徒が練習を重ねて、新しい校歌は、4月5日の開校式で、改めて披露される予定です。

右の記事にある通り、開校式には、村民の皆さんはどなたでも出席することができます。ご都合のつく方はどうぞ気軽においでください。村の学校の節目を体感し、子ども達の新たな門出を応援してください。



# 閉校と開校に向けて 節目を迎える 準備が進んでいます



## 閉校式と開校式を挙ります

3月末をもって長い歴史に幕を下ろす、草野・飯樋・白石小学校と飯館中学校の閉校式を、3月29日(日)に挙行することになりました。

また、式に合わせて、閉校となる4校の校歌の歌碑の移設、スライド上映、児童・生徒から歌のプレゼントなどを行う「閉校記念行事」も実施します。

そして、4月5日(日)には、「いいたて希望の里学園」の開校式を挙行します。村民の皆様も参加できますので、ぜひ会場にお越しください。

閉校式及び開校式の詳細は、「広報いいたてお知らせ版」3月20日号でお伝えします。

## 第3回住民説明会を開催しました

1月25日、飯館中学校において、「義務教育学校開校に関する住民説明会」を開催しました。

説明会では、義務教育学校開校の準備状況を報告しました。また、加えて、令和2年度の義務教育学校における諸経費の一部保護者負担の考え方について、説明しました。

### 〈諸経費の一部保護者負担について〉

震災以降、国費で手当てされてきた児童・生徒の制服代や、こども園・学童保育のおやつ代等について、国の制度内容が変更されました。それに伴い、保護者の皆様に、それらの一部負担をお願いすることになりました。ご理解とご協力をお願いいたします。



# 飯舘 百景

## ドンニヤイ村との交流

互いのふるさとのこと、学校のことを伝え合いました。ドンニヤイ村の生徒達は、農業や家事を手伝いながら、家族が助け合って暮らしている様子も紹介しました。

さまざまな活動を共にした飯舘中学校の生徒達は「ラオスの人のあたたかさを感じた」「言葉が分からなくても通じ合えると感じた。これからも交流を続けたい」と話していました。

1月下旬、飯舘村がホストタウンを務めるラオスのドンニヤイ村から、中等学校に通う3人の生徒が、関係者と共に村を訪れました。村が、村の子ども達と共に、校舎の建設支援金を贈ったことがきっかけとなり、同村とは、長く交流が続いています。震災時にはドンニヤイ村の皆さんから励ましや心のこもったお見舞いをいただきました。

飯舘中学校は、ふるさと学習の一環で行う「ホストタウン・プロジェクト」の活動を生かして歓迎し、一緒にTシャツの製作や、英語の授業にも取り組みました。生徒の一人、ソムサイ・アサさんは、「ここに来ることが夢でした。次は自分の力で来れるよう勉強を続けたい」と語っていました。また一行は、平成24年から同校への支援を続ける伊藤美智子

さん(前田)の自宅も訪問。「スポーツコートや照明器具が整い、教育環境の充実が図られています」と感謝を伝えました。伊藤さんは手作りの料理で歓待し、「自分も何か貢献できたらと思います。500円貯金を続けて毎年の寄付を行っています。亡き夫も同じ考え方はずいぶん前から」と思いを伝えていました。



伊藤さんのお宅での様子

「口に合うかどうか分からないけど」。蒸しパンやおこわなど、手作りの料理がたくさん準備されていました。ラオスの皆さんは、たいそう気に入った様子で、あっという間に完食！「これはどうかな」と伊藤さんが持って来る料理を、次から次に完食！完食！本来の目的を忘れてしまわないか心配する程の勢いでしたが、思いを伝える際には、一人ひとりが伊藤さんと抱き合い、心からの感謝を伝えていました。



復興対策課の挑戦

Vol.3 営農再開の歩み

かつてない課題に向き合い、村の再生にまい進してきた9年間の軌跡を、復興対策課の取り組みにスポットをあて、シリーズで振り返ります。

震災後の「農」の再生に向けた復興対策課の道のり

村内での「なりわい農業」「新たな農業」

村内での「農地を守る」の件数は含みません

村内での「生きがい農業」

村外での営農継続・再開

事業費42.7億円(見込み)  
補助金13.1億円(見込み)

事業費35.5億円  
補助金10.6億円

事業費23.0億円  
補助金 6.8億円



(水田放牧)

100件

81件

55件

362件

290件

160件

49件

49件

49件

事業費11.7億円  
補助金 1.9億円

16件

45件

事業費7.9億円  
補助金1.4億円

4件

45件

事業費5.8億円  
補助金0.8億円

2件

39件

事業費4.2億円  
補助金0.4億円

1件

32件

事業費3.5億円  
補助金0.3億円

24件

令和元年度

平成30年度

平成29年度

平成28年度

平成27年度

平成26年度

平成25年度

平成24年度

平成23年度

事業費の累計  
農業者の累計

までいすらの確立を目前にしていた村。全村域での営農断念、全村避難により、農家は言葉にできないほどの悔しさと失望を味わいました。

そして、いま

次のページへ

「農地を守る」 約860件  
「生きがい農業」 約360件  
「なりわい農業」 約90件  
「新たな農業」 約10件

取り組みは上記の件数まで増えてきており、令和元年以降は、「なりわい農業」へのステップアップ支援を進めています。

全村避難の解除  
(長泥除く)

主要野菜の  
摂取制限等の解除

復興計画(第五版)  
の策定

環境省直轄除染・地力回復工事・家屋解体等

モデル除染

避難区域見直し

復興計画(第一版)  
の策定

全村避難

- 国による主な動き
- 県による主な動き
- 村による主な動き
- 村農政の動き(村外:避難中)
- 村農政の動き

村外(避難先)での営農再開・生きがい支援

村内での作付実証等を踏まえた 村内での先駆的な営農再開支援

村営農再開  
ビジョン策定

営農再開検討会議

「農」の再生への支援

新規参入・新規就農支援

移住・定住・交流対策と連携した移住者による就農の他、震災後新規就農を支援しています。

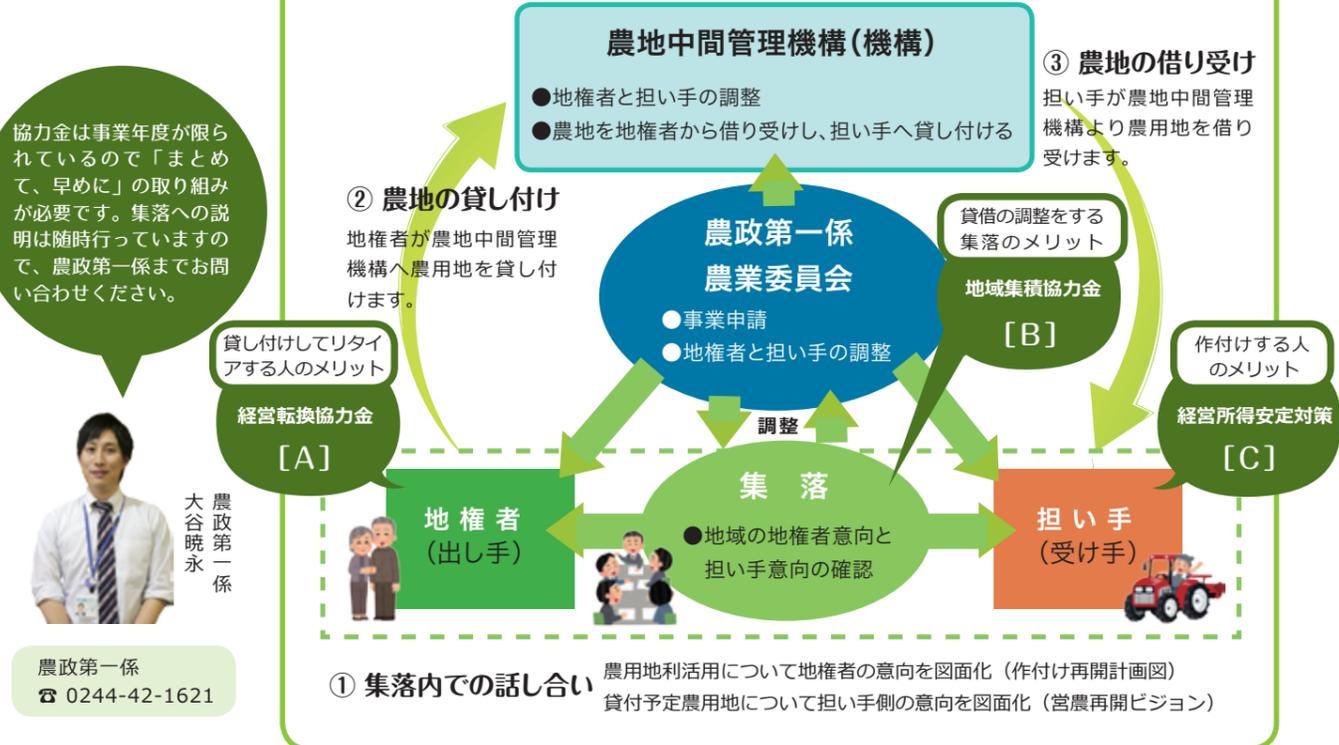
飯舘村での「農」の再生への取り組みを4つのステップに分けて示した飯舘村営農再開ビジョンに基づき「農地を守る」「生きがい農業」「なりわい農業」「新たな農業」それぞれの支援策を展開してきました。

平成23年12月の農業者アンケートにより、農業再開希望者は、わずかに70件(農家数の6%未満)程度しかいないことが判明しました。

「農」の再生には農家の方それぞれの「意欲・技術」の維持・継承が必要不可欠であると確信。

国・県を説得して、平成24年度から村外での営農再開など、他の被災市町村が手掛けていない取り組みを展開しました。

### 農地中間管理事業の流れ



そして、いま

飯舘村の農政では、生きがい、なりわい、家族のつながり、歴史など、さまざまな意味を含めて「農」という言葉を使ってきました。

また「農」の再生に向けて、避難から9年間歩みを止めず、

- 〈第1段階〉村外での営農再開支援
- 〈第2段階〉村内での先駆的な営農再開支援
- 〈第3段階〉農業復興組合の設立
- 〈第4段階〉営農再開ビジョンに基づく支援
- 〈第5段階〉10年後を見据えた話し合い

と、階段を一歩一歩登りながらの支援と事業展開を図ってきました。

避難指示解除後3年を満了しようとする中で、村民自身による生きがい農業、なりわい農業の展開と併行して、農業未経験世代による新規就農や移住者による就農定着、村外で営農再開している方自らの村に繋がる取り組み、東京大学、福島大学、明治大学、大阪大学の活動による関係人口の増加など、「農」を基軸にした新たな動きが出てきています。

今、「農」の再生に向けての次の段階を迎えています。

新たな集落営農組合や農業法人を立ち上げての農地集積もその一例です。個々の技術・意欲を最大限に活かした農業を大切にしながら、集落全体の将来を見据えた取り組みを皆さんと一緒に進めて行きたいと思えます。

どんなメリットがあるのでしょうか

**機構集積協力金交付事業について** 農地中間管理事業を活用して土地の貸借契約をすることで、以下の協力金の交付を受けることができます。

**[A] 経営転換協力金** 令和3年度まで 1.5万円/反×貸付面積(上限50万円/戸)  
令和4年度から5年度まで 1.0万円/反×貸付面積(上限25万円/戸)  
(交付申請:令和元年から令和5年までに1戸で1回のみ)

	交付単価	上限額
令和元年度～3年度	1.5万円/10a	50万円/1戸
令和4年度・5年度	1.0万円/10a	25万円/1戸

**〈交付要件〉**  
10年以上の契約

**〈交付対象〉**  
・ 農業部門の減少により経営転換する農業者  
・ リタイアする農業者  
・ 農地の相続人で農業経営を行わない者

**[B] 地域集積協力金** 令和元年度から 1.3万円～3.1万円/反 × 貸付面積

	機構の活用率		交付単価	村への交付単価
	一般地域	中山間地域		
区分1	20%超40%以下	4%超15%以下	1.0万円/10a	区分1 1.3万円/10a
区分2	40%超70%以下	15%超30%以下	1.6万円/10a	区分2 1.9万円/10a
区分3	70%超	30%超50%以下	2.2万円/10a	区分3 2.5万円/10a
区分4		50%超	2.8万円/10a	区分4 3.1万円/10a

**〈交付要件〉**  
6年以上の契約

**〈交付対象〉**  
・ 担い手に農地を集積・集約した集落

**〈交付要件〉**  
交付対象面積の1割以上が担い手に集積されていること

**[C] 経営所得安定対策** 田畑に作付け・販売をする場合、作物や取り組み内容に応じて助成を受けることができます。詳細については再生協議会(農政第二係内☎0244-42-1625)までお問い合わせください。

### 農地の出し手・担い手をつなぐ 農地中間管理事業について

農地中間管理事業とは、地権者が農地を農地中間管理機構（以下「機構」）へ貸し付けし、機構から担い手へまとまりのある形で長期間貸し付ける事業です。

農地の貸借契約を締結する際には機構、集落、役場、農業委員会の関係機関が地権者と担い手のマッチングや事業申請のサポートを行い、農地を効率的かつ有効に活用します。

農地中間管理事業を活用し、農地の貸借契約を締結することにより、機構集積協力金を申請する事ができます。

※次のページの図で、概要を解説します。

## 給与公表 村職員の給与等をお知らせします

村の行政運営における公正性と透明性を高めるため、「地方公務員法」及び「飯舘村の人事行政の運営等の状況の公表に関する条例」に基づき、職員数、給与その他の人事に関する運営状況についてお知らせします。詳しくは、村ホームページをご覧ください。

問 総務課総務係 ☎ 0244-42-1611

### ● 人件費の状況(平成30年度普通会計決算)

住民基本台帳人口 (平成31年1月1日)	歳出額(A)	人件費(B)	人件費率 (B/A)
5,704人	160億4,218万4千円	8億208万3千円	5.0%

### ● 職員給与費の状況(平成30年度普通会計決算)

職員数 (平成30年4月1日)	給与費			
	給料	職員手当	期末・勤勉手当	計(B)
75人	2億9,278万2千円	9,088万8千円	1億1,669万1千円	5億36万1千円

(参考)一人当たりの給与費(B/A) 609万9千円 ※職員手当には、退職手当を含みません。

### ● 職員の平均年齢・平均給料月額及び平均給与月額の状況 (平成31年4月1日)

#### ＜一般行政職＞

職員平均年齢…40.0歳

平均給料月額…31万3,742円

平均給与月額…40万2,796円

※給与とは、職員に支給される給料と手当などの合計額です。

(参考) 福島県一般行政職

職員平均年齢…42.8歳

平均給料月額…32万8,700円

平均給与月額…40万8,299円

### ● 特別職の報酬などの状況 (平成31年4月1日)

給料 (月額)	村長	64万4千円(80万5千円)
	副村長	58万5千円(65万円)
	教育長	55万8千円(62万円)
報酬 (月額)	議長	30万円
	副議長	25万1千円
	議員	23万5千円
期末 手当	村長	(平成31年度支給割合) 6月期 1.65月分 12月期 1.70月分 計 3.35月分
	副村長	
	議長	
	副議長	
	議員	

※給料及び報酬の( )内は、減額措置を行う前の金額です。

### ● 職員の初任給の状況 (平成31年4月1日)

区分	飯舘村	
一般行政職	大学卒	18万6,500円
	高校卒	15万3,900円

(参考) 福島県一般行政職

大学卒…19万3,100円

高校卒…15万8,400円



## 長泥地区

### 環境再生事業

## 夢のある「ふるさと」の再生を目指して

#### 長泥地区での環境再生事業について

環境再生事業は環境省が行っている事業です。長泥地区では、村内で発生した除去土壌の異物除去、品質調整、放射能濃度分別により農地造成と農業再生を図る環境再生事業に取り組んでいます。

昨年中は、再生資材化実証によりかさ上げされ、汚染されていない土壌で表土を50cmの深さまで覆った盛土の上で、ソルガムなどの資源作物の露地栽培試験が行われた他、2か年にわたり、ビニールハウス内での資源作物や花卉の育成性を評価するための試験栽培が実施されています。左の写真は、育成試験を行うハウス内の視察の様子です。



2月9日、小泉進次郎環境大臣が来村。環境省が長泥地区で進める環境再生事業を視察し、菅野村長、長泥区民と意見を交わしました。小泉大臣は、出迎えた菅野村長、鳴原良友区長と共に、花卉の試験栽培が行われているビニールハウスを視察。また、15人の区民が出席した意見交換会では、避難を続ける住民の声に耳を傾けました。鳴原区長は、「事業の完成が終わりではなくその先が大事。夢のあるふるさとを再生し、帰還困難区域のモデルにしたい」と発言。区民もそれぞれ、「事業に期待する。1日も早く進めてほしい」「区の全体が『やってよかった』と振り返れる事業にしてほしい」と思いを伝えました。小泉大臣は、「目に見える前進を積み重ね、最後まで皆さんと一緒に進んでいく」と応じ、言葉に力を込めました。また翌日10日には、小泉大臣が、閣議後の記者会見で、「長泥の実証事業で手塩にかけて育てていただいた花を、これからは環境省で使わせていただきたいと思います」と発言。農林水産省、総務省、復興庁などにも長泥産のストックが飾られました。

(右)「将来にわたって地域を維持できるような仕組みづくりをお願いしたい」と訴える菅野村長  
(左)長泥区民が育てた花を、鳴原圭子さんが小泉大臣に手渡しました



# 自分の人生を、次世代に引き継ぐ

## ～ 飯舘村民自分史づくりプロジェクト ～

村は、昨年度に続き、希望する70歳以上の村民の方々の人生をつづる冊子「自分史」の作成事業を行いました。  
この事業は、村が協定を結んでいる福島大学の協力を得て実施しています。福島大学の学生が、20人の村民にインタビューを行い、1冊の「自分史」にまとめました。参加した皆さんが、これまでの人生を振り返り、家族や次の世代に語り継ぐ大切な一冊となります。  
2月14日には、交流センター「ふれ愛館」で、完成発表会及び贈呈式が開かれました。



自分史を作成した村民の皆さんと、インタビューを行った学生が集いました

インタビューを行いました！

「人生」や当時の思いを聞き、1冊の本として未来に残すお手伝いできました。聞き取りを通して「つながり」を大切に生き方を知ったことが、自分のこれからの人生について、深く考えるきっかけになりました。



渡邊守男 さん (小宮)

福島大学行政政策学類 3年 小川航輝 さん

インタビューを受けました！

孫と同年くらいの大學生にインタビューしてもらった。これまでの人生を振り返り、次の世代に残せるものができた。自分の人生が1冊の本に残せるということは、家族にとって宝物となる。村に生きてよかったと思う気持ちを残せることに、感謝したい。

## つないでいきたい、村民の優しさ

事業が始まって2年目。昨年の1冊目と今年の2冊目を合わせて、これまでに40人の方の「自分史」を作成しています。

インタビューを担当する大学生が自宅を訪ねると、お茶や漬物を振る舞ってくれたり、お土産まで持たせてくれたり。村民の皆さんのそんな姿からも、大学生には感じるものがあつたようです。「本を作る中で関わった方々の優しさや思いやりも後世につないでいくべきものだと感じました」と感想を残しています。



インタビューを行った学生達のゼミの先生です



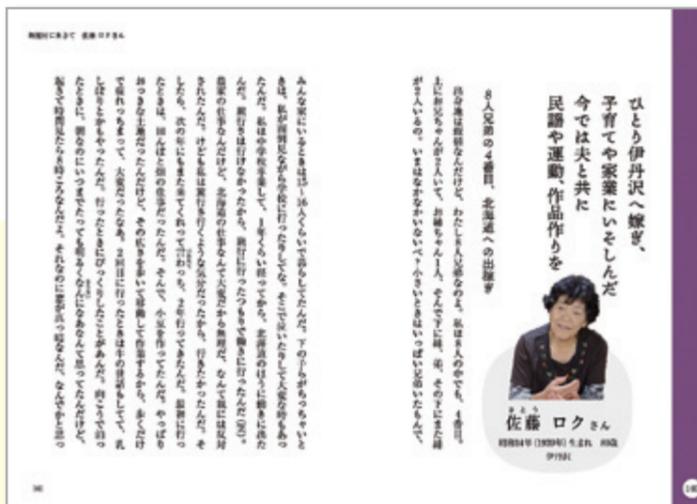
福島大学行政政策学類 大黒 太郎 准教授

学生は、村民の皆さんから、仕事ばかりで苦勞の絶えなかつた人生のお話をたくさん聞いてきました。しかし同時に、働くのは家族のため、苦勞の中でも夫婦や友人、村の仲間たちと助け合ってきた皆さんの人生は、愛や思いやり、優しさにあふれていました。

がんばって働くこと、家族や地域の仲間達と一緒に活動すること、思いやりとお互い様の精神でみんなと接することなど、これから社会に出る学生達が、苦勞の中でも人生を楽しむ、充実したものにするためのヒントをたくさんいただきました。



今回作成した「飯舘村に生きて 20人の足跡2」に掲載されているのは、20人の方の自分史です。完成した冊子は、交流センターふれ愛館で閲覧できる他、貸し出しも行われています。村の歴史や、村をつくってきた方々の足跡が浮かび上がってくる素晴らしい本となっています。ぜひ手に取って読んでみてください。



## 基礎から学べるオカリナ教室 やさしい音色にいやされて



基本をしっかり教わることで曲を演奏できるまでに上達した皆さん。オカリナの魅力を満喫しました

2月6日、交流センター「ふれ愛館」で、生涯学習事業「オカリナ教室」を開きました。講師は、生涯学習課の職員・大森真が務めました。木管楽器に分類されるオカリナは、手に持ち息を吹き込んで演奏する笛で、素朴で温かな音色が魅力です。教室では、吹き方や指使いなどを、基本から丁寧に練習。全員で「キラキラ星」「春の小川」など全4曲を演奏できるまで上達しました。演奏の楽しさを味わった参加者からは「また開催してほしい」と期待の声が上がっていました。

## 体をポカポカ温める 薬膳料理はいかがでしょう



「薬膳」の考え方を基に食と健康の関わりや食材の大切さについて講義する宮川先生（前方中央）

1月25日、交流センター「ふれ愛館」で、自主文化事業「目からウロコの薬膳教室」が開かれました。講師には、東京大学附属病院の宮川隆助教を招きました。宮川先生には、「身体を冷やす食材と温める食材とは!？」と題した漢方講座で、「薬膳」の考え方や、体を温める食材について話していただきました。参加者の皆さんは、メモを取るなどして、熱心に聴講しました。さらには体を温める料理の一例として、岐阜県の郷土料理「鶏(けい)ちゃん」などを皆で味わい学びを深めました。

## 吉川市に招かれ 菅野村長が一日市長に



中原市長(左)と対談する形で講演。多くの市民が耳を傾けました

2月16日、菅野村長が、埼玉県吉川市で一日市長を務めました。これは、応援職員の派遣などで支援をいただいている同市の招きに応じたもので、菅野村長は、一日市長として、市内の視察や市民との交流に臨みました。任命式は、商業施設「イオンタウン吉川美南」の特設会場で行われ、菅野市長(村長)は、多くの市民を前に講演。村の復興状況を伝え、同市の支援に感謝を伝えました。また、同会場では、吉川市の職員の皆さんが、村の物産の販売も行ってくださいました。

## こんな時間もいいですね 「男性のつどいinいいいたて」



工具を用いて鯉をモチーフにした木工細工を作って楽しみました

1月29日、交流センター「ふれ愛館」で、第3回「男性のつどいinいいいたて」を開催しました。参加者の5人の男性は、前回に続いての連続参加。顔なじみとなり、自然に会話がはずんでいました。キッチンスタジオでの調理も手際よくスムーズに。昼食の席では、若い頃の体験談や、地域の話に花を咲かせ、協力してつくった鍋料理を味わいました。食事の後には、木工作業を一緒に体験。個性あふれる作品が完成し、参加者同士が出来映えを見せ合い、楽しんでいました。

## 内堀雅雄福島県知事が来村 村内の新たな動きにも注目



花農家、看護師、地域おこし協力隊、デザイナー、鍛冶職人として村で活躍する皆さんと懇談しました

2月19日、内堀雅雄福島県知事が村を訪れ、菅野村長、遠藤教育長らと意見交換を行いました。また、新たな仕事おこしに取り組む事業所などを視察し、昨年開所した「やすらぎ工房」飯館工場のギャラリーでは、村内で起業した人など多彩なメンバーと懇談しました。一人ひとりの取り組みに耳を傾けた内堀知事は、「村をよく知る住民と、第三者の目を持ってこの地に来た人の力が合わさることで、村独自の新しい魅力が生まれてくるのではないのでしょうか」と期待を伝えていました。

## 大切な文化財を火事から守る 「文化財防火デー」防火訓練



今年は雪も氷もない青空の下での訓練となりました。神社の駐車場から境内の林に向け放水訓練

文化庁・消防庁は、1月26日の「文化財防火デー」を中心に、文化財の防火運動を、全国で進めています。村も毎年、この運動に取り組んでおり、今年は2月1日に、佐須地区の山津見神社で、防火訓練を行いました。訓練には、神社と村消防団の他、村文化財保護審議会、南相馬消防署飯館分署、役場消防隊、村教育委員会などが参加。火災の発生を想定し、貴重な文化財の持ち出し訓練、放水訓練、初期消火訓練などを行いました。

その  
ところはっ  
教えてください  
そのワケを  
#10

2月半ばのお姿。豆まきパー  
ジョンからバレンタインモード  
にリニューアルしました。お供  
えするかのようにチョコレート  
を置いてくださる方も。



村役場の窓口に、イイタネちゃ  
んが座っているのをご存知ですか。  
ある時は、ラグビーワールドカップ  
日本大会を応援していましたが、  
ある時は新春をにぎやかに祝い、  
またある時は毛糸の鬼パンをはい  
て節分を楽しんでいました。

「どんどん仲間が増えてにぎや  
かになり、『なんなんだこれは…』  
といつか誰かに注意されるだろう  
…と言いつつ合いながら、今のところ  
楽しく飾っています」。3月向けに  
は、桃の節句バージョンを計画中と  
か。村役場に足を運んだ際には皆  
さんもぜひ楽しんでくださいね。

村役場住民課 さん  
伊丹沢



イイタネちゃん  
の  
友達ハート  
チョコ

## 話題の パレット

身近な話題を  
お寄せください  
☎0244-42-1613

スキーの技術を  
教わります。  
みんな元気  
いっぱい!



村と「いいたてスポー  
ツクラブ」の共催。ク  
ラブの皆さんが中心と  
なって指導し、スキー  
の上達をサポート。

2月2日、「あだたら高原ス  
キー場」で「スノースポーツ教  
室」を開催。かつては「スキー  
教室」として行っていた恒例  
イベントです。小中学生の参  
加者も、大人に混じってスノ  
ースポーツを楽しみました。



スノーボードも楽し  
みました。(こちらは  
経験者のみが参加可  
能でした) 青空の下  
で思い思いに

村の食材を使ったカレー  
パンを考案し販売に向けて  
道の駅などと調整を行って  
いる明治大学農学部の方々。  
2月7日、村内でカワサキ  
カレーパンを使った揚げ方  
の実演を行い来庁しました。



本所先生は研究室のあ  
る神奈川県川崎市のイ  
ベンなどでも販売した  
いと考えているそう

カリッと揚がったカレー  
パンはスティック型で食べ  
やすさも好評。家庭で揚げ  
て食べたい方には冷凍状態  
での販売もできるそうです。

村と明治大学農学部は、平成30年に「震災  
復興に係る連携・協力に関する協定」を締  
結。同学部は「食」をテーマとした人材交  
流と、農のある暮らしの再生を目指して活  
動を展開しています。



緑川友唯さん

遠峰伽織さん

本所靖博先生

# オリンピック聖火リレー

3金  
27

## in飯館村

飯館村交流センター「ふれ愛館」  
午前8時50分スタート

東京2020オリンピック聖火リレーが、3月26日  
に檜葉町・広野町の「Jヴィレッジ」からスタートし  
ます。飯館村においては、スタートから2日目の27  
日、交流センター「ふれ愛館」から「いいたて村の道  
の駅までい館」の区間で聖火リレーが行われます。

GO!GO!

当日は交通規制も予定さ  
れています。今後県から  
発表される情報をご確認  
の上、ご来場ください。

当日は、聖火リレーの  
ランナーと一緒に、村  
の小中学生が、サポ  
ーターランナーとして伴走  
する予定です。



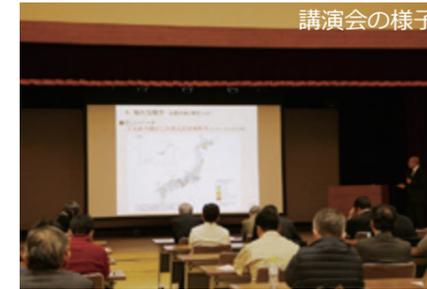
# 入札結果をお知らせします

入札日／2月18日(単位：円)

工事(業務)の番号・名称	契約額(税込)	請負業者	完成予定
白石小学校清掃業務	578,435円	(有)藤野商事	令和2年3月下旬
農業用施設等整備工事(伊丹沢西エリア肉用牛用施設)	209,000,000円	(株)アシストジャパン 宇都宮支店	令和2年3月下旬
農業用施設等整備工事(伊丹沢南エリア肉用牛用施設)	253,000,000円	(株)アシストジャパン 宇都宮支店	令和2年3月下旬
飯舘村消防団用トランシーバー購入	1,089,000円	(株)大一事務機	令和2年3月下旬
道路台帳原図スキャニング業務	660,000円	(株)中庭測量コンサルタント 福島営業所	令和2年3月下旬
大倉浄水場配水管災害復旧工事(下流側)	1,210,000円	恒栄総合設備(株)	令和2年3月下旬
営農飲雑用水施設災害復旧工事	23,650,000円	後藤建設工業(株)	令和2年3月下旬
佐須大倉線道路災害復旧工事	3,630,000円	後藤建設工業(株)	令和2年3月下旬
小滝大倉線道路災害復旧工事	9,460,000円	後藤建設工業(株)	令和2年3月下旬
百目木比曾線道路災害復旧工事	16,236,000円	(株)英工務店	令和2年3月下旬
小宮風兼線道路災害復旧工事	20,020,000円	(有)福相建設	令和2年3月下旬
渡戸前田線道路災害復旧工事	10,175,000円	濱田建設工業(株)	令和2年3月下旬
北ノ坂湯舟線道路災害復旧工事	16,390,000円	後藤建設工業(株)	令和2年3月下旬
林道施設災害復旧工事	6,820,000円	濱田建設工業(株)	令和2年3月下旬
村道滑線寺坂橋修繕工事	4,345,000円	濱田建設工業(株)	令和2年3月下旬
営農再開支援水利施設等保全事業(飯舘西部その1) 用排水路施設等保全工事(水路除草等)第2回工事	6,710,000円	(有)渡建工業	令和2年3月下旬

## 飯舘村第6次総合振興計画

### 「地域づくり講演会」と「中間報告会」を開きました



講演会の様子



中間報告会の意見交換

# 第

6次総合振興計画の策定に向けて、2月12日、明治大学の小田切徳美教授を招いて、地域づくり講演会「新しい地方創生―農山村からの提案―」を開催しました。小田切教授は、全国各地の農山村における関係人口増加策などについて事例を紹介。多彩な人材が住民と共に地域づくりを行う「新しい地方創生」の形を提示しました。

また、2月19日には、「中間報告会」を開催。会では、現段階の計画案を事務局が説明し、約20人の参加者と意見を交わしました。

参加者からは、「分かりやすい目標設定をしてほしい」「高齢者だけでなく、若者の役割づくりも意識してほしい」「人口減が見込まれるが、小さくてもやっていくんだ」とアピールを「お互いの気持ちをお互いに大切にした村づくりをお願いしたい」など切実な思いが語られました。いただいたご意見は今後の計画策定に生かしていきます。

## 2月の村の動きと主なできごと

- 1日・ホストタウンフレーム切手 販売開始(村役場)
- ・文化財防火デー防火訓練(山津見神社)
- 1～2日・あぶくまロマンチック街道構想推進協議会「星空観賞ツアー」(宿泊体験館きこり)
- 2日・11区農地中間管理事業説明会(前田・八和木集会所)
- ・スノースポーツ教室(あだたら高原スキー場)
- 5日・新校歌披露及び歌唱指導 黛まどかさん・平林龍さん来校(小中学校)
- 6日・オカリナ教室(交流センター「ふれ愛館」)
- 9日・小泉進次郎環境大臣 来村(長泥地区・いいたて村の道の駅までい館)
- 12日・地域づくり講演会(交流センター「ふれ愛館」)
- 13日・いいたて村タウンミーティング(村役場)
- 14日・第1回飯舘村議会臨時会(村役場議場)
- ・福島県広報コンクール表彰式(福島市)
- ・自分史事業 完成披露式(交流センター「ふれ愛館」)
- 16日・菅野村長 吉川市一日市長(埼玉県吉川市)
- 19日・内堀雅雄福島県知事 来村(村役場他)
- ・長泥環境再生事業運営協議会(村役場)
- ・生涯学習事業「革工藝教室」(交流センター「ふれ愛館」)
- ・飯舘村第6次総合振興計画 中間報告会(交流センター「ふれ愛館」)
- ・学校運営協議会(村役場)
- 20日・第2回農業委員会定例会(村役場)
- 21日・定例教育委員会(村役場)
- 26日・元気アップポイント表彰式(交流センター「ふれ愛館」)
- ・第5回義務教育学校開校準備委員会(村役場)
- 27日・までのりの里の栄養教室(いちばん館)

## ペンギンのくちばし

## こころの ぽけっと

「ペンギンのくちばし」なる言葉があるんだそうです。どういふことかと言うと、ペンギンは歯がないのに、水中でしっかりと魚をくわえることが出来るという事。なぜ、出来るのか？それは、くちばしの中の毛がすべて内側に向けて生えているから魚をくわえることが出来る。つまり、一本一本は弱くとも同じ方向を向くことによってくわえる力が強くなるというところから使われる言葉だそうです。

どこの町や村にも「キャッチフレーズ」というものがあります。皆でこの方向で「村づくり町づくり」をしていこうという訳です。飯館村は「緑とふれあいの村」や「まていライフの村づくり」ということで、皆で同じ方向で村づくりをしてきました。

先日、「いいいて希望の里学園」の校歌をつくるにあたって、多くの子どもさんから「まてい」という言葉を入れて下さいと言われました。子どもたちまで「まてい」といふ方向を向いているという証かなと感激したところです。今回、村では、第6次の村の計画づくりを、多くの方々の声を聞きながら進めさせていたいただいているところです。まていライフの村づくりの考え方を引き継ぎながら、新しい言葉でどう村民に同じ方向を向いてもらおうかというところが必要でありましょう。また、村としての意志表示の仕方としてもキャッチフレーズは大切です。

一連の災害によって、一人ひとりの力や行政区の力、そして村の力も弱くなってしまうかもしれないですが、「ペンギンのくちばし」のように皆で同じ方向を向くことによつて、次の世代に新しい飯館村を引き継いでいけるような気がします。これからの村づくり、「ペンギンのくちばし」になぞらえていこうではありませんか。

令和2年2月20日 飯館村長 菅野 典雄

## いいいて スポーツ公園

## きてみて

いいいてスポーツ公園

平成30年のグランドオープン以来、村内外の多くの皆様にご利用をいただいているスポーツ公園。これからも利用者の皆様の笑顔と健康とスポーツ愛を支えていきます。

陸上競技場・球場・屋内コート・屋外コート・散策路などがある緑豊かな公園です。学校エリアや村役場が隣接しています

飯館村伊丹沢字山田380  
☎0244-42-0152 (管理棟)

### ルーム トレーニングROOMあります

平日のみ 午前9時～午後8時  
(午後5時以降は自主管理)

### ゲートボール協会が活動中

毎週水曜日 午前9時～午後3時  
スポーツ公園で活動しています。

詳しくはスポーツ公園  
管理棟 ☎0244-42-0152  
までお問い合わせを

メンバー  
募集中!



上田和昌さんの

## ラオス通信。

vol.10

## ラオスの農村では(1)

東京オリンピック・パラリンピック2020で村が「復興『ありがとう』ホストタウン」を務めるラオスってどんな国？上田さんのレポートで素朴な疑問に応えます。きっとラオスが身近になりますよ！

上田さんは山梨県の出身。  
ラオス国立大学で活動する  
青年海外協力隊の隊員です。



ラオスは社会主義国であり、後発発展途上に位置付けられています。ラオス政府は、(あくまでも目標ですが)2020年に発展途上国から脱却することを目指しています。

近年のラオスは、急速な発展を続けており、その中で、都市と田舎では、交通や住宅、いわゆるインフラの整備に大きな差が生まれています。

ラオスの田舎の農村部には、数多くの自然が残されています。家畜動物の牛、ヤギ、鶏などの他、野生の動物も結構います。

どうしてこんなに自然が残っているかというと、国の人口が少なく市場が小さいため経済が発展しにくいということや、内陸国でモノの運搬が難しいこと、あと一つ大きな理由として、内戦によって、たくさんの不発弾が埋まっています、安易に土地を開発できないという事情があります。

都市部では見られなくなった伝統的な高床式の住居。木の家、竹を編みこんでいる家、コンクリートを使った家などさまざまです。

今回は  
ラオスの農村では(2)  
を紹介します!



## ひとのうごき

(令和2年1月31日現在)

人口	今月 (前月比)
男	2728人 (-1)
女	2737人 (-1)
計	5465人 (-2)
世帯数	1830戸 (+1)

1月1日～31日までの

◆◆人口動態◆◆

転入	11人
転出	9人
出生	0人
死亡	4人
(住民基本台帳人口)	



(1月21日から2月20日までに届け出のあったものを掲載)

※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

## おくやみ

氏名	年齢	行政区
小林 モモヨ	95	伊丹沢
佐藤 ユリ	98	佐須
渡佐 武司	85	草野
三浦 二三郎	85	深谷
佐野 トミエ	93	前田・八和木
今野 キヨ	87	上飯樋
長澤 マスイ	100	大倉
佐藤 サツキ	84	二枚橋・須萱
菅野 勝男	64	蕨平
高橋 キヨ子	93	伊丹沢

ご冥福をお祈り申し上げます

## 各種証明書等の郵便での請求・申請について

各種証明書の取得のために飯館村役場へ来庁するのが困難な方について、証明書等を郵便で取得することができます。

住民課 住民係 (☎0244-42-1618/1619)  
税務係 (☎0244-42-1615)  
生活支援係 (☎0244-42-1609)

# HOPES

ホープス セカンド

2nd

## 花と星と家族の笑顔に囲まれて

花井 由貴さん（大久保・外内）



勤めていた会社を退職して就農。カスミソウ生産組合に加わり、栽培や出荷のノウハウを学び、昨年からは出荷もできるようになりました。3人の子供も達は村立のこども園と小学校に通っています。

2月19日には、村で働く仲間と共に、内堀雅雄福島県知事との懇談に臨みました。仕事に子育てに忙しい中、村への協力も惜しみません。

※知事の来村はP21に関連記事

3人の幼い子どもを育てながら就農した花井さん。カスミソウの栽培に取り組み、昨年は、初めての出荷も果たしました。カスミソウは、県と村の補助を活用して整えた4棟のハウスに加え、露地でも栽培。伊丹沢出身で自営業の夫、準二郎さんも、積極的に作業を手伝ってくれるそうです。

花井さんは福島市の出身。進路に迷っていた時、「植物は



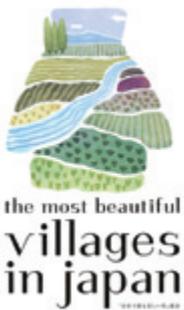
素直だよ」という父の言葉に励まされ、福島明成高校に進学。草花の栽培を専攻しました。「思い返せば今につながる接点がたくさんあって」。就農時の補助も、「嫁ぎ先のお母さんの情報がきっかけです」。しかも小さい頃は、「農家のお嫁さんになって農家になる」のが夢だったとか。「私は記憶にないのですが、母がそれを覚えていました」。

一昨年から完全移住。村の星空に見とれ、四季を実感しながら暮らす毎日です。子ども達も「先生方が手をかけてくれて、少人数だからこそできる教育を受けています」。そして「何でも聞くことができる」「心強い先輩方にも恵まれ、人となりがりながら、花農家としての基盤をつくっているところですよ。「当たり前ではない、本当にありがたいこと」と笑顔をほころばせる花井さんでした。

### 〈編集後記〉

●福島県市町村広報コンクールにおいて、昨年の「広報いいたて12月号」が広報紙（町村の部）で佳作に選ばれました。村民の皆さんのご協力なしでは、作成できない広報紙。いつもいつもありがとうございます。村で取材ができること、写真撮れることに改めて感謝し、精進いたします！（木幡）

●第6次総合振興計画の中間報告会。出席人数は多くなかったものの、方向性を示す大切さや、今まで通りでないからこそ大事にしたい考え方など、深い部分で意見が語られました。自分の考えを真つ直ぐに述べる誠実さ。相手の立場を思っ一言を添える優しさ。村をつくってきた先輩方の声、次世代につながるという中間世代の声に、村の底力を改めて感じました。（星）



飯舘村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。